とうほく南三陸町

WWFジャパンと とうほく南三陸

南三陸町7月の気温

平均気温	20.6℃
最高気温	24.8℃
最低気温	17.5℃

ギンザケやカキ、ホタテやワカメなどの養殖業が盛んな宮城県南三陸町。志津川湾を囲むように志津川地区・歌津地区・入谷地区・戸倉地区と4つの地区から形成されるこの町は、2011年3月の東日本大震災で大津波による甚大な被害を受けました。

WWFジャパンは、大きな被害を受けた地元の基幹産業である水産業を震災前そのままの状態に戻すのではなく、海の環境に配慮した新しい養殖のあり方を模索し、その実現に向けた取り組みを行なっています。

http://www.kasumi.co.jp/

自然の中の幸せなぼく

茨城県土浦市立東小学校　四年　中村　修真

「セミのよう虫を見つけたぞ。」お父さんの声で、ぼく、お母さん、弟や妹が庭にとび出した。木を登っていったよう虫は、しばらくすると動かなくなった。

「あっ、せ中がわれてきた。」

弟が、おどろいたようにさけんだ。家族みんなで、声も出さずにじっと見ていた。中からセミが出てきて、さい初ちぢんでいた羽が、ピーンとのびた時、ぼくは感動した。今年の夏もセミの羽化を見られるのが楽しみだ。

ぼくの家では農園をやっている。リンゴ、キウイ、さつまいも、ヤーコンなどを作っているが、ブルーベリーが中心だ。いろいろな虫や鳥がたくさん集まって来る。キジの親子が仲よく歩いているすがたも見られる。去年はブルーベリーのネットがかじられているのを見つけたが、はん人は野ウサギだった。冬になると、ミノ虫も枝についている。

家の近くには田んぼがあり、ザリガニつりができる。夏になると、家にカエルの鳴き声が聞こえて来てにぎやかだ。

庭の林にはクワガタやカブト虫が集まって来る。朝四時ころに起きて見にいくと、つかまえることができる。お父さんに教わりながら、カブト虫のお家づくりをした。元気に育つように、毎日毎日お世話をした。

じいじとばあばは、毎日二ひきの犬のさん歩をする。ぼくも時々いっしょについていく。春には、アブラナのまわりをモンシロチョウがとんでいる。神社のサクラはとてもきれいだ。夏には、目の前を横切るオニヤンマにおどろかされる。秋には、一面にさく真っ赤なひ岸花がきれいだ。クリ拾いもできる。

今、庭の竹やぶでとれたタケノコで、ばあばが作ってくれたごはんを食べながら、こんな幸せがいつまでも続くといいなあと感じている。そして、身近な自然や生き物を、ずっとずっと大切にして、守っていきたいと思う。

◆この作文&体験記録集は、カスミのホームページでもご覧いただけます。